

高校再編計画後期計画(最終案)における  
盛岡ブロックの再編計画に関する説明会

R3.2.18(木) 18:30~20:00

岩手県民会館 中ホール

岩手県教育委員会

# 次第

---

- 1 開会
- 2 県教育委員会あいさつ
- 3 県教育委員会から説明
- 4 質疑応答
- 5 閉会

# 配布資料

---

- ・ パワーポイントのスライド資料〔資料No.1〕
- ・ 新たな県立高等学校再編計画後期計画（最終案）の概要〔資料No.2〕
- ・ 統合新設校における特色ある教育を先導的に実践する学びの姿〔資料No.3〕
- ・ 新たな県立高等学校再編計画後期計画（最終案）〔資料No.4〕

# 説明の内容

---

- 1 高校再編計画後期計画について
- 2 盛岡ブロックの現状と学校統合案の背景について
- 3 盛岡南・不来方統合新設校の姿について
- 4 盛岡工業高校の移転・整備について

# 1 高校再編計画後期計画について

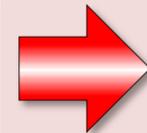
---

# ア 後期計画(案)の概要について ①

## 1 後期計画の基本的な考え方

### (1) 生徒の希望する進路の実現

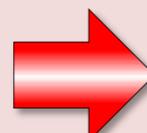
生徒の進路実現に向けた、学力及び専門技術の定着・向上等



- ① 各ブロック内の学校規模をできる限り維持し、学びの選択肢を確保
- ② 進学や専門分野の深い学びを希望する生徒のため、一定の学校規模も維持

### (2) 地域や地域産業を担う人づくり

地域人材の育成等について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待等



- ① 各地域の学校をできる限り維持
- ② 多様な分野の学びも確保し、産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備

# ア 後期計画(案)の概要について ②

## 2 後期計画の具体的な取組

### (1) 各地域における学びの選択肢の確保 (原則として現在の学科、学級数を維持)

- 1学級校の存在が地方創生の推進に必要となっている地域もあり、このような地域においては、所在する自治体と連携した教育活動の充実が進められている現状にあることから、後期計画期間中において一定の入学者のいる1学級校を維持。
- 県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある1学年7学級等の学校は、学校規模を確保。

### (2) 盛岡ブロックにおける大規模校の統合 (盛岡南高校と不来方高校の統合)

- 県内各地域から生徒が集まる盛岡市内の高校への生徒の集中を緩和。
- 生徒が学習活動や特別活動等で多様な価値観に触れながら切磋琢磨できるよう、体育、芸術、外国語等の特色ある教育を実践する学校については、学校規模の大きさを生かした発展的な統合を行い、さらに先導的な取組ができる教育環境を整備。

# ア 後期計画(案)の概要について ③

## 2 後期計画の具体的な取組

### (3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備

- ア 県南地域における大規模な工業高校の新設**（水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校産業技術科の統合）  
県南地域においては、規模の大きな工業高校として統合し、産業人材のニーズに幅広く対応できる工業教育を充実。
- イ 宮古ブロックにおける総合的な専門高校の新設**（宮古商工高校と宮古水産高校の統合）  
ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科の機能を維持した統合により、複数の職業系専門学科を併置した「総合的な専門高校」として再編。
- ウ 二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置**（福岡工業高校と一戸高校の統合）  
ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持した統合により、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校として再編。

# イ 後期計画策定に向けた取組の経緯 ①

## (1) 後期計画策定に向けた主な取組について（年度ごと）

H29	生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（H29～H30）
H30	<p>中学生の進路希望等に関するアンケート（H30）</p> <p><b>地域検討会議（第1回～第4回）（H30～R2） 県内10会場で4回ずつ 計40回実施</b></p> <p>要請に応じた説明会（H30～R2） 県内9会場で実施</p>
R1	<p><b>県民との意見交換会（第1回～第2回）（R1～R2） 県内9会場で2回ずつ 計18回実施</b></p> <p>後期計画（案）の公表（R2.2.6）</p> <p><b>パブリック・コメントの実施（R2.2～R2.3）</b></p>
R2	<b>後期計画（最終案）の公表（R3.2.1）</b>

地域の代表の方々や県民の方々から、**計67回、のべ約2,100人**に参加いただき意見を伺った。

## イ 後期計画策定に向けた取組の経緯 ②

### (1) 後期計画策定に向けた主な取組について

#### 〔地域検討会議の会議構成員等〕

構成	出席者
会議構成員	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ 市町村長</li><li>▪ 市町村教育委員会教育長</li><li>▪ 市町村中学校PTA代表者</li><li>▪ 市町村産業関係者</li><li>▪ 各地区中学校長代表者</li></ul>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ 各ブロック選出の県議会議員</li><li>▪ 各ブロック内所在の県立高等学校長</li></ul>

※PTA代表者は市町村教委、産業関係者は市町村からの推薦による。

# イ 後期計画策定に向けた取組の経緯 ③

## (2) 地域検討会議の開催状況(盛岡ブロック)

会 議	対象市町	実施日	出席者数
第1回 盛岡①	八幡平市、滝沢市、岩手町、紫波町	H31. 1. 7	のべ305人 (計8回)
盛岡②	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	H31. 1.28	
第2回 盛岡①	滝沢市、雫石町、葛巻町、矢巾町	R1. 5.28	
盛岡②	盛岡市、八幡平市、岩手町、紫波町	R1. 5.29	
第3回 盛岡①	盛岡市、滝沢市、雫石町、岩手町	R1. 8. 5	
盛岡②	八幡平市、葛巻町、紫波町、矢巾町	R1. 8.19	
第4回 盛岡①	八幡平市、岩手町、雫石町、葛巻町	R2. 8.17	
盛岡②	盛岡市、滝沢市、紫波町、矢巾町	R2. 8.28	

## イ 後期計画策定に向けた取組の経緯 ④

### (3) 意見交換会の開催状況（盛岡ブロック）

意見交換会	対象市町	実施日	出席者数
第1回	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、 葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	R1. 8.22	のべ73人 (計2回)
第2回		R2. 8.28	

### (4) 要請に応じた説明会（出前説明会）の開催状況（盛岡ブロック）

団体名（主催）	実施日	出席者数
葛巻高校同窓会	R1. 9. 2	のべ187人 (計4回)
沼宮内高校教育振興会	R1. 9.10	
雫石町	R1. 9.18	
盛岡南高校PTA	R2. 9. 8	

## ウ 地域検討会議等の意見 ①

### (1) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

#### ※ 後期計画(案)公表前

高校の存在は町の存続のキーである。

進学実績のある高校の**盛岡一極集中を見直す**ことも検討してもよいのではないか。

地域の実情に配慮し、地域に根ざした**小規模校は存続させるべき**である。

**盛岡市内の学校についても統合**しなければ、周辺地区の小規模校の定員が充足しない。

**盛岡一極集中**の状況であり、盛岡地区の教育のみが突出することで**社会にひずみ**が生じることを危惧している。

現状は、**盛岡一極集中**のよう見え、盛岡市内の学級数の調整が進んでいないように感じる。

**盛岡地区への一極集中を是正**する必要があり、盛岡地区の学校統合を行うべき。

産業界の立場から見ても、**AIやIoT等の活用**は避けて通れない状況にあり、今後、AIやIoT等の知識を持った人材が必要になる。

地域に根ざした学校や学科を残し、**多様な学びの機会を保障**してほしい。

など

## ウ 地域検討会議等の意見 ②

(2) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

※ 後期計画(案)公表前

[特徴等]

- 盛岡中心部への一極集中を是正し、周辺部の小規模校の存続を求める意見が多数出されている。
- 盛岡市内の高校についても統合を求める声が出されている。

## ウ 地域検討会議等の意見 ③

### (3) 「岩手の高校教育を考える市町村長懇談会」からの提言（令和2年2月5日）

- 懇談会は、県内33市町村長を会員としている。（代表世話人は遠野市長）
- 提言は、県内33市町村長の連名で、R2.2.5 に知事へ提出された。
- 提言は4項目からなる。

#### 提言 I

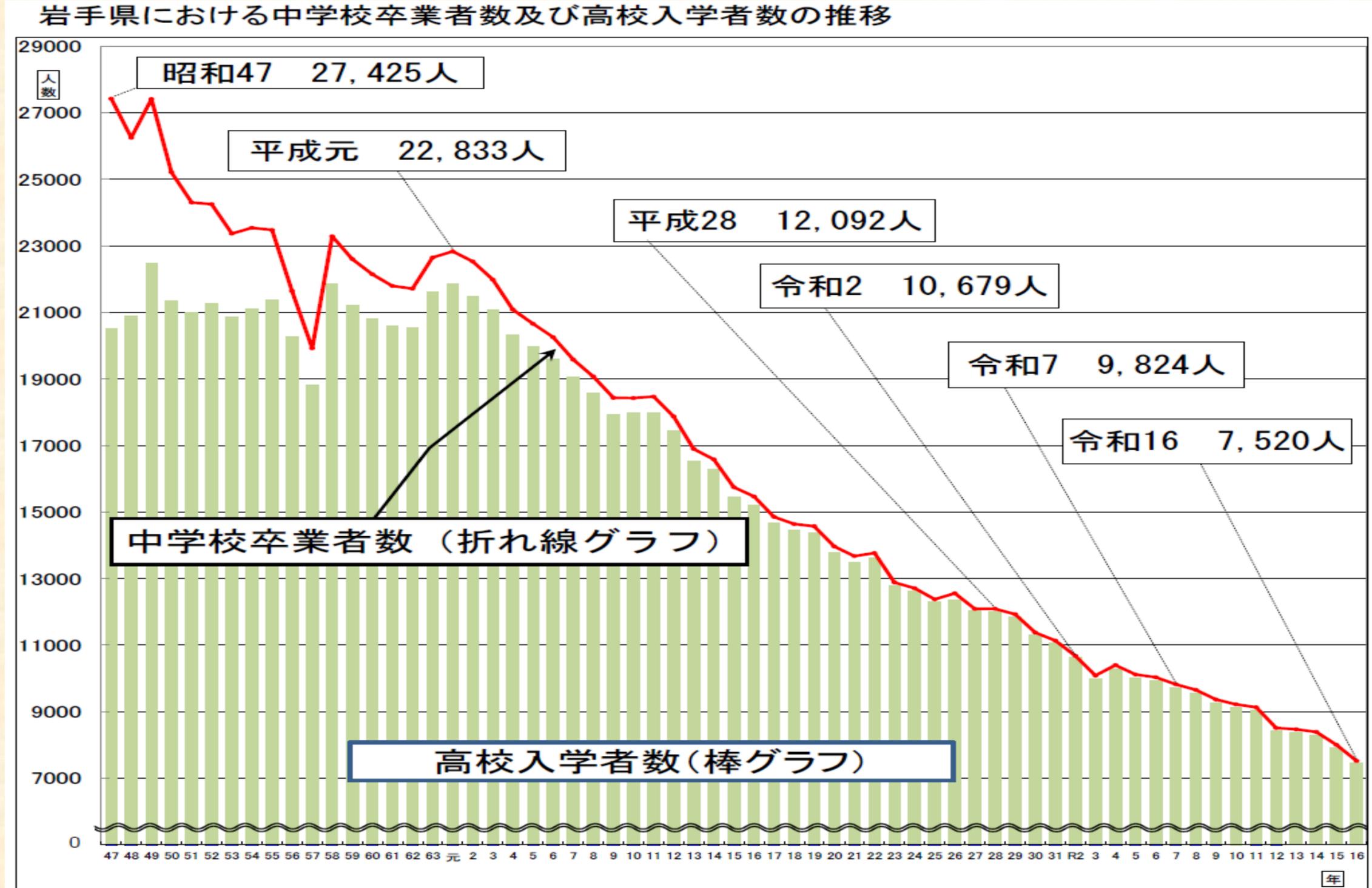
### 『中山間地・沿岸部における小規模校の存続に関すること』

特に中山間地及び沿岸部における小規模校にあっては、地方創生総合戦略を踏まえた、将来の地域経営人財の育成の場としてICT技術等を積極的に活用するなどの環境整備を進め、都市部と中山間地及び沿岸部の高校配置が不均衡な状況にならないよう、存続に向けた見直しを図るよう提言する。

# 【補足】地域検討会議等における意見の背景 ①

## ◆ 中学校卒業生数と高校入学者数の推移

平成30年間で  
半減  
今後15年で  
3,000人減  
(40人学級で  
75学級分の減)



資料No.4「新たな県立高等学校再編計画後期計画(最終案)」P42 参照

# 【補足】地域検討会議等における意見の背景 ②

## ◆ 高校の設置状況

資料No.4「新たな県立高等学校再編計画後期計画(最終案)」  
P43 参照

・ 県立高校(全日制)	56校	} 県立(本校) 63校
・ // (定時制) ※分校含む	3校	
・ // (全定併置)	6校	
・ 市立高校(全日制)	1校	
・ 私立高校(全日制)	13校	
<b>計</b>	<b>79校</b>	

### 〔参考〕東北各県の高校設置状況

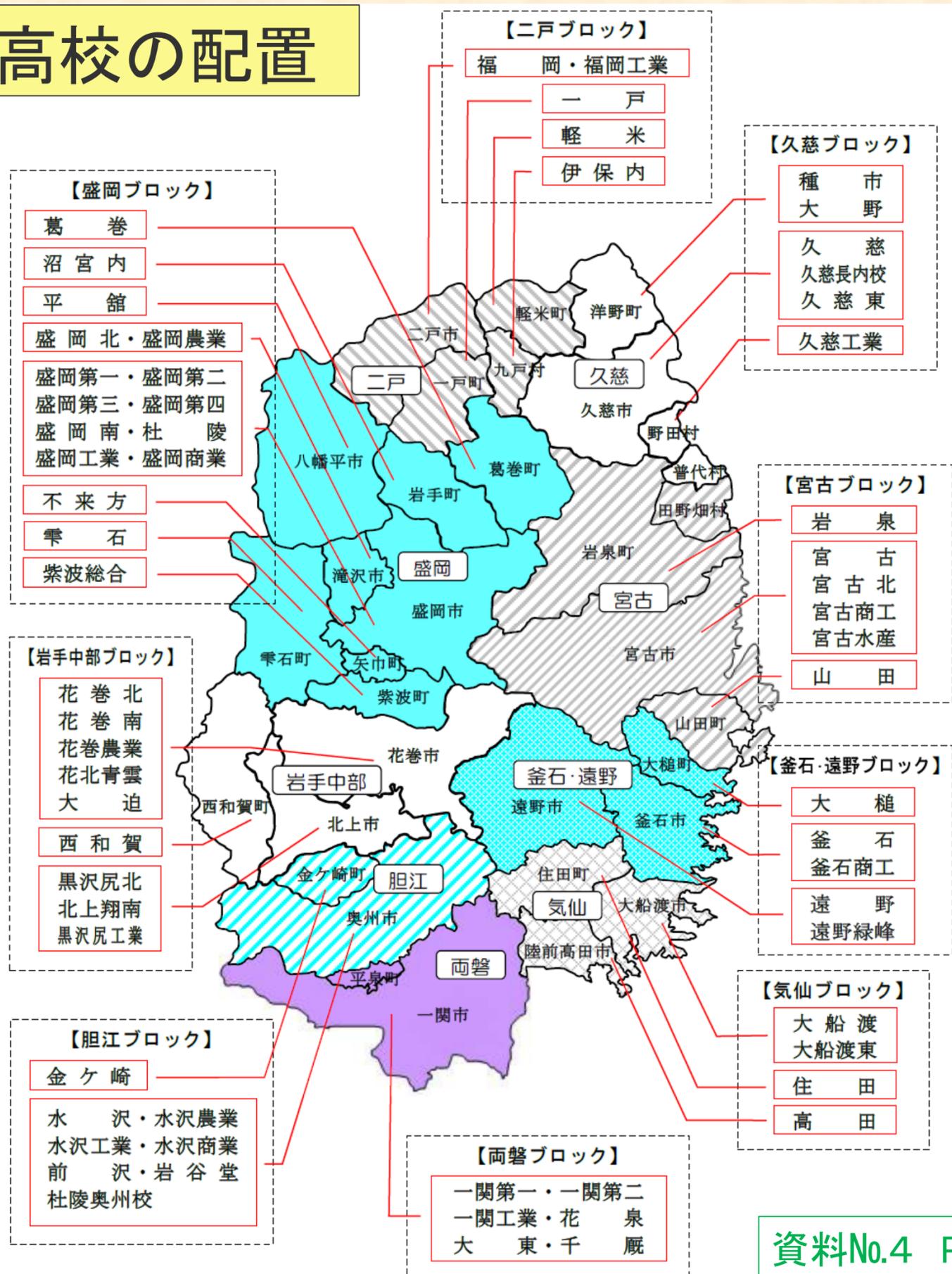
青森 77校(公60, 私17)	秋田 54校(公49, 私5)
宮城 95校(公76, 私19)	山形 61校(公47, 私14)
福島 110校(公92, 私18)	全国平均 103校(公75, 私28)

令和2年度学校基本調査速報より (R2.8.25 文部科学省) ※通信制除く

[学区と高等学校の配置に関する地区割]

学区	ブロック	ブロック内市町村	ブロック内の高等学校(令和2年度)			
盛岡	盛岡	盛岡市	盛岡第一	盛岡第二	盛岡第三	盛岡第四
			盛岡南	杜陵(定・通)	盛岡工業(全・定)	盛岡商業
			盛岡市立			
			岩手	岩手女子	盛岡白百合	江南義塾盛岡
			盛岡誠桜	盛岡大学附属	盛岡スコーレ	盛岡中央(全・通)
			八幡平市	平館		
			滝沢市	盛岡北	盛岡農業	
			雫石町	雫石		
		葛巻町	葛巻			
		岩手町	沼宮内			
紫波町	紫波総合					
矢巾町	不来方					
岩手中部	岩手中部	花巻市	花巻北	花巻南	花巻農業	花北青雲
			大迫	花巻東		
		北上市	黒沢尻北	北上翔南	黒沢尻工業	専修大学北上
		西和賀町	西和賀			
胆江	胆江	奥州市	水沢	水沢農業	水沢工業	水沢商業
			前沢	岩谷堂	杜陵奥州校(定・通)	水沢第一
		金ヶ崎町	金ヶ崎			
両磐	両磐	一関市	一関第一(全・定)	一関第二	一関工業	花泉
			大東	千厩	一関学院(全・通)	一関修紅
		平泉町				
気仙・釜石	気仙	大船渡市	大船渡(全・定)	大船渡東		
		陸前高田市	高田			
	住田町	住田				
	釜石市	釜石(全・定)	釜石商工			
釜石・遠野	遠野市	遠野	遠野緑峰			
	大槌町	大槌				
宮古	宮古	宮古市	宮古(全・定・通)	宮古北	宮古商工	
		山田	山田			
		岩泉町	岩泉			
		田野畑村				
久慈	久慈	久慈市	久慈	久慈長内校(定)	久慈東	
		普代村				
		洋野町	種市	大野		
		野田村	久慈工業			
二戸	二戸	二戸市	福岡(全・定)	福岡工業		
		一戸町	一戸			
		軽米町	軽米			
		九戸村	伊保内			

# 高校の配置



## 市町村の高校設置数

- ・2校以上  
→13市町
- ・1校  
→17市町村
- ・0校  
→3町村

資料No.4 P44参照



# 【補足】地域検討会議等における意見の背景 ③

## ◆ 高校の規模 (県立全日制) 【ブロック別】

小規模校が47%

小規模校は  
県内各地に所在

大規模校は

- ・盛岡地区
- ・県央部 に多い

学校規模	学校数	ブロック								
		盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
7学級	4	盛岡一 盛岡三 不来方 盛岡工業								
6学級	7	盛岡四 盛岡南 盛岡商業	花巻北 黒沢尻北 黒沢尻工	水沢						
5学級	11	盛岡二 盛岡北 盛岡農業	花巻南 北上翔南		一関一 一関二 千厩			宮古 宮古商工	久慈東	
4学級	11	紫波総合	花北青雲	水沢工業 岩谷堂		高田 大船渡 大船渡東	釜石 遠野		久慈	福岡
3学級	6		花巻農業	水沢商業	一関工業 大東	釜石商工				一戸
2学級	14	沼宮内 葛巻 平館		水沢農業 前沢 金ヶ崎			遠野緑峰 大槌	宮古水産 岩泉	久慈工業 種市	軽米 福岡工業
1学級	9	雫石	大迫 西和賀		花泉	住田		山田 宮古北	大野	伊保内
	62	15	9	7	6	5	4	6	5	5

## ウ 地域検討会議等の意見 ④

### (4) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見 統合案に関わる主な賛成意見

※後期計画(案)  
公表後

盛岡市内の大規模校の統合は画期的な取組であると評価している。

地方の学校から規模を縮小してきたことから、志願者が盛岡一極集中となっている状況を是正するために、統合案に賛同する。

盛岡市内の大規模校を統合する計画により、盛岡市周辺部の小規模校の入学者の確保に繋がることが期待できる。

県全体としての課題である盛岡地区への志願者の集中に対応した盛岡地区の統合計画が示された。

少子化と盛岡市内の学校への流出等により、盛岡周辺の県立高校が縮小されている状況は深刻。盛岡南と不来方の統合により、周辺地域と学校を守ることを考えてほしい。

様々な地域の声を聴きながら検討されており、その基本的な考え方や具体的な取組については、英断であると評価している。統合については、地域の理解を得ながら進めてほしい。

など

## ウ 地域検討会議等の意見 ⑤

### (4) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

※後期計画(案)  
公表後

#### 統合案に関わる主な**反対**意見

矢巾町の今後の中学校卒業者の推移をみても中学校卒業生数は大きく減少しない。**統合により、中学生の選択肢が狭まる。**

中学生の高校進学に対する志向も多様化し、特別な支援を要する生徒も増加している中で、**高校の選択肢が減少することを心配。**

両校が統合されてこれまでの**良好なライバル関係がなくなる**。特色ある学校を単独で維持していくべき。

**都市部一極集中化は特に問題がない**のではないかと。

地方の高校に欠員が多い理由は学校の魅力が不足しているためであり、**盛岡市内の学校を統合することで志願者の集中を是正できるかは疑問。**

すでに両校で切磋琢磨している状況なので、**統合せず単独で維持するべき。**

など

## ウ 地域検討会議等の意見 ⑥

### (4) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

※後期計画(案)  
公表後

#### [特徴等]

- 地域検討会議(第4回)においては、統合について、**計画案のとおり進めるべきとの意見が多数**出された。
- 意見交換会(第2回)においては、**盛岡南高校関係者を中心に、統合案の白紙撤回を求める意見**が出された。
- 盛岡市内の統合案を示したことについて、**画期的な判断**と評価する声も複数ある。
- 後期計画策定後、中学生や保護者に混乱が生じないように、統合に向けた検討内容等について**情報提供を求める意見が多数**出されている。

## エ 盛岡ブロックの統合案に対する意見書・嘆願書等について

### ■ 盛岡市からの要望書①～③（令和2年10月2日、10月29日、12月2日）

- [主な内容]
- ・必要な学びや学科の早期の明示
  - ・統合手順や新設校の十分な説明
  - ・様々な意見を考慮した統合の慎重な判断

### ■ 盛岡市議会からの意見書（令和2年12月22日）

- [主な内容]
- ・盛岡地区の統合計画の白紙撤回

### ■ 盛岡南高校の存続を願う会からの嘆願書（令和2年11月13日）

- [主な内容]
- ・盛岡地区の統合計画の白紙撤回
  - ・署名（12,580筆）※12/24追加署名（2,774筆）計15,354筆

# オ 盛岡ブロックの再編計画に関する修正・追加 ①

## (1) 盛岡ブロックにおける大規模統合について **【修正】**

中学生の進路選択に大きな影響を及ぼす懸念の声等を考慮し、統合に至るまでの学級減の方法について検討。

[盛岡市及び盛岡ブロックの中学校卒業予定者数の推移]

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
盛岡市内	2,626	2,421	2,681	2,508	2,541	2,512
対前年	▲ 28	▲ 205	260	▲ 173	33	▲ 29
対R2年	—	▲ 205	55	▲ 118	▲ 85	▲ 114
盛岡ブロック	4,176	3,893	4,192	4,009	3,980	3,986
対前年	▲ 91	▲ 283	299	▲ 183	▲ 29	6
対R2年	—	▲ 283	16	▲ 167	▲ 196	▲ 190

後期計画期間において、R4に中学校卒業予定者数がピークとなる見込み。

# オ 盛岡ブロックの再編計画に関する修正・追加 ②

## (1) 盛岡ブロックにおける大規模統合について 【修正】

【修正前】 R4から盛岡南を3学級減、R7に2学級減

学校名	R 4	R 5	R 6		R 7	R 8	R 9
盛岡南	17 学級 (5・6・6) 1学級減	15 学級 (4・5・6) 1学級減	12 学級 (3・4・5) 1学級減	2学級減 →	統合・新設	→	完成年度
不来方	21 学級 (7・7・7)	21 学級 (7・7・7)	21 学級 (7・7・7)		29 学級 (8・10・11)	26 学級 (8・8・10)	24 学級 (8・8・8)

【修正理由】

中学生の進路の確保に配慮するとともに、統合まで両校の活発な学校活動を維持するため。

【修正後】 R5に盛岡南と不来方を各1学級減、R7に3学級減

学校名	R 4	R 5	R 6		R 7	R 8	R 9
盛岡南	18 学級 (6・6・6)	17 学級 (5・6・6) 1学級減	16 学級 (5・5・6)	3学級減 →	統合・新設	→	完成年度
不来方	21 学級 (7・7・7)	20 学級 (6・7・7) 1学級減	19 学級 (6・6・7)		30 学級 (8・11・11)	27 学級 (8・8・11)	24 学級 (8・8・8)

# オ 盛岡ブロックの再編計画に関する修正・追加 ③

## ○ 学級減や学校統合と現在の学年との関わり

年度	募集定員			学級減	現在の学年との関わり			
	盛岡南	不来方	新設校		①	②	③	④
R2	240人	280人			中2	中1	小6	小5
R3	240人	280人			中3	中2	中1	小6
R4	240人	280人			高1	中3	中2	中1
R5	200人	240人		南▲1, 不▲1	高2	高1	中3	中2
R6	200人	240人			高3	高2	高1	中3
R7			320人	統合に伴う▲3		高3	高2	高1
R8			320人				高3	高2
R9			320人					高3

- ① 現中2生 → 盛岡南高校または不来方高校に入学し、盛岡南高校または不来方高校を卒業
- ② 現中1生 → 盛岡南高校または不来方高校に入学し、**高校3年時に新設校の生徒となり、新設校を卒業**
- ③ 現小6生 → 盛岡南高校または不来方高校に入学し、**高校2年時に新設校の生徒となり、新設校を卒業**
- ④ 現小5生 → 新設校に入学し、新設校を卒業

## オ 盛岡ブロックの再編計画に関する修正・追加 ④

### (2) 盛岡ブロックにおける工業高校の整備 **【追加】**

盛岡工業高校について、盛岡南高校の統合後における校舎及び施設等を活用した教育環境の整備を検討する。

#### **【盛岡工業高校の移転・整備を追加した趣旨】**

- 盛岡工業高校の**校舎等の老朽化に対応**。
- 産業教育の一層の充実や統合に関わる施設等の有効活用についての意見を踏まえ、新たなものづくり産業を支える人材育成に向けて、既存施設等の活用と一部更新により、**工業教育のセンタースクールとしての機能を強化**。

## オ 盛岡ブロックの再編計画に関する修正・追加 ⑤

### 【地域検討会議等での意見】 ※工業人材の育成等に関するもの

県の産業振興等の方向性や、**市町村の地域振興や人材育成の方向性等を十分に考慮し、再編計画に反映させてほしい。**

科学技術の進展や産業構造の変化等に伴って、専門的な知識や高度な技術を身に付けるために、**実践力の育成が重要という方向性には共感できる。**

ものづくり産業を担う人材育成に対する高校教育の役割が大きいという認識にも異論をはさむ余地はなく、**いわて県民計画の方向性にも沿った内容**と考える。

AIやIoT等の活用は避けて通れない状況にあり、今後、**AIやIoT等の知識を持った人材が必要**になるものと思う。これらを学べる学科等を設置することも考えるべき。

**工業高校のセンタースクール**としての役割を担う盛岡工業高校は、今後も**工業の学びを幅広く備えた教育環境**にあるようお願いしたい。

盛岡工業高校の**施設・設備は老朽化が進み、交通の便も悪い**。同校の移転、施設等の更新により、**工業教育の充実や担い手の育成が促進されるのではないか。**

## 2 盛岡ブロックの現状と学校統合案の背景について

---

## ア 盛岡ブロックの現状と課題

- ① 盛岡ブロック内中学校卒業生数の大幅な減少
- ② 盛岡中心校※においても志願者数の減少

→ **定員の適正化**を図る必要がある。

- ③ 県内各ブロックから、盛岡ブロックへ流入する中学生が過大
- ④ 盛岡ブロック内において盛岡周辺校※所在市町から盛岡中心校への進学

→ **盛岡への一極集中の解消**を図る必要がある。

- ⑤ これまでの学級減により1校当たりの学級数の減少

→ 一定の**学校規模を確保し、多様な進路希望への対応**や、希望する部活動等の学校活動へ対応できる教育環境の整備を図る必要がある。

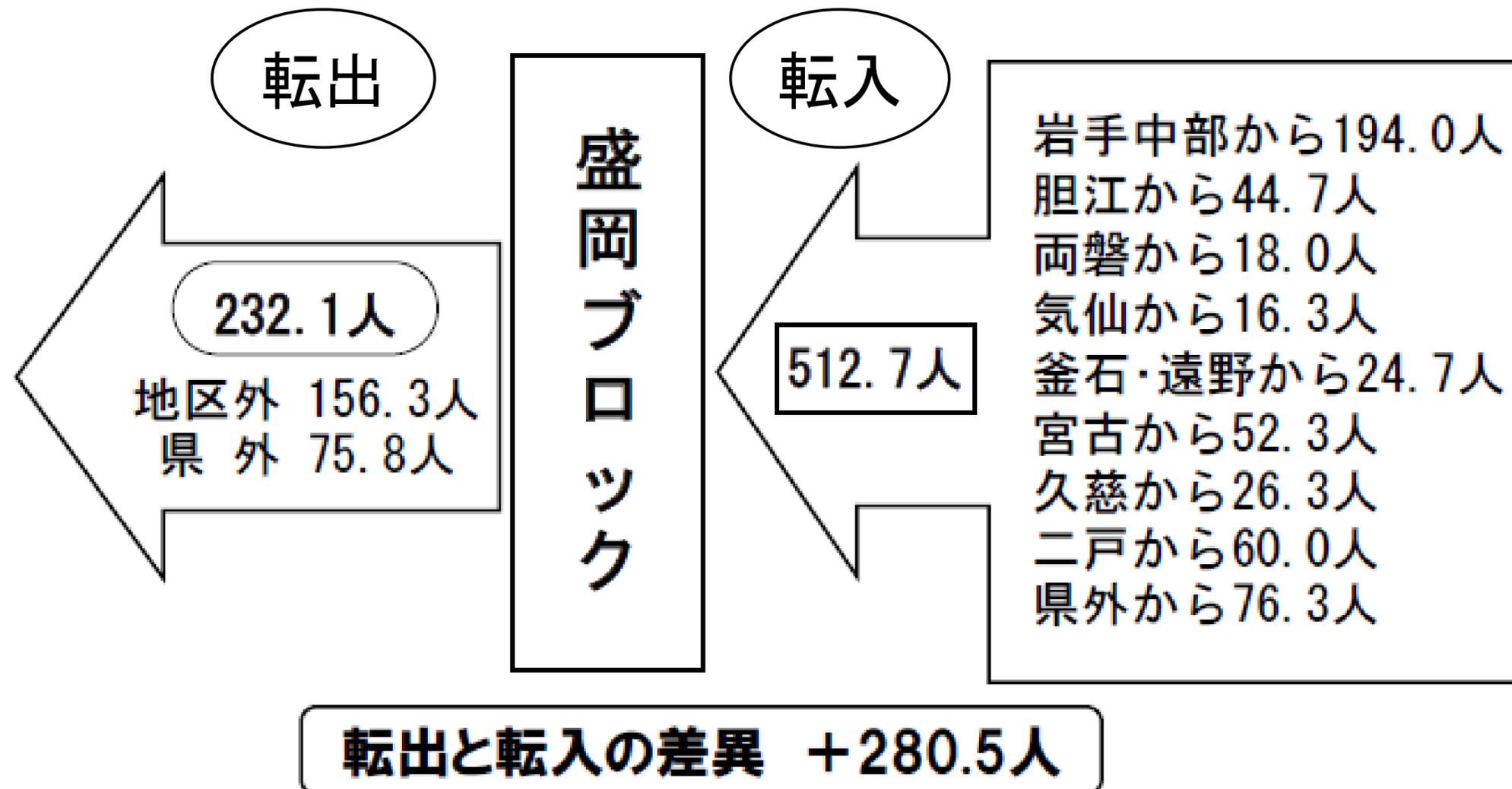
※ 盛岡中心校 … 盛岡地域の県立高校10校（一、二、三、四、北、南、不、農、工、商）

※ 盛岡周辺校 … 盛岡周辺地域の県立高校5校（沼宮内、葛巻、平舘、雫石、紫波総合）

# イ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ①

## (1) 盛岡ブロックにおける転入・転出の状況 (H30～R2の3カ年平均)

※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象(過年度卒を含む)



## イ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ②

### (2) 盛岡ブロックにおける転入の状況（H30～R2の3カ年平均）

※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

学 校	転入者	1校あたり	備 考
盛岡ブロック 公立計	317.3 人		
盛岡中心校	255.4 人	25.5 人	一、二、三、四、北、南、不、農、工、商
盛岡周辺校	37.3 人	7.5 人	沼宮内、葛巻、平舘、雫石、紫波総合
その他	24.6 人	8.2 人	定時制、盛岡市立
盛岡ブロック 私立計	195.3 人		
盛岡ブロック 計	512.7 人		

## ウ 中学校卒業生数の減少の状況 ①

### (1) 盛岡ブロックと盛岡市(旧都南村含む)の中学校卒業生数の推移

(R2までは実数。R7とR12は推計値)

地区等	S58 <sup>※1</sup>	S63 <sup>※2</sup>	H1 <sup>※3</sup>	H12	H22	R2	R7	R12
盛岡ブロック	6,520	7,216	7,312	6,310	4,951	4,176	3,986	3,462
H1比	89.2	98.7	100.0	86.3	67.7	57.1	54.5	47.3
うち 盛岡市	4,101	4,715	4,724	3,844	2,976	2,626	2,512	2,168
H1比	86.8	99.8	100.0	81.4	63.0	55.6	53.2	45.9

(上段:人, 下段:%)

※1 盛岡南高校開校年度

※2 不来方高校開校年度

※3 中学校卒業生数がピークとなった年度

## ウ 中学校卒業生数の減少の状況 ②

### (2) 募集定員、入試倍率等の推移

学 校	H1			H12			H22			R2		
	学級数	定員	倍率									
盛岡中心校	81	3,555	1.44	82	3,280	1.32	66	2,640	1.22	61	2,440	1.13
盛岡周辺校	27	1,210	1.07	26	1,040	0.79	14	560	0.92	11	440	0.53
合計	108	4,765	1.34	108	4,320	1.18	80	3,200	1.17	72	2,880	1.03

※ 盛岡中心校 … 盛岡一，盛岡二，盛岡三，盛岡四，盛岡北，盛岡南，不来方，盛岡農，盛岡工，盛岡商 の県立10校  
 盛岡周辺校 … 沼宮内，葛巻，平舘，雫石，紫波総合 の県立5校

## ウ 中学校卒業生数の減少の状況 ③

### (3) 盛岡ブロックにおける1校当たり募集学級数の推移

区分	H1	H12	H22	R2
盛岡中心校	8.1	8.2	6.6	6.1
盛岡周辺校	5.4	5.2	2.8	2.2
盛岡ブロック全体	7.2	7.2	5.3	4.8

中学校卒業生数の減少に対応するために実施してきた**学級減**により、**盛岡中心校においても1校当たりの募集学級数が減少**している。

## ウ 中学校卒業生数の減少の状況 ④

### (4) 盛岡ブロックにおける専門学科の推移 (○数字は学級数を表す)

学校名	学級数	H11	H16	R2
盛岡農	⑥→⑤	林業, 園芸, 畜産, 生物工学, 農芸化学, 生活科学	生産科学, 農業活用, 森林科学, 生物工学, 食品科学, 生活科学	植物科学, 環境科学, 動物科学, 食品科学, 人間科学
盛岡工	⑨→⑦	機械, 電気, 電子, 電子機械, 情報技術, 工業化学, 土木, 建築, デザイン	機械, 電気, 電子機械, 電子情報, 工業化学, 土木, 建築, デザイン	機械, 電気, 電子機械, 電子情報, 工業化学, 土木, 建築・デザイン
盛岡商	⑨→⑥	商業②, 会計②, 事務②, 情報処理②, 国際経済	流通ビジネス②, 国際ビジネス, 会計ビジネス②, 情報ビジネス②	流通ビジネス②, 会計ビジネス②, 情報ビジネス②
沼宮内	⑥→②	普通⑤, 家政科学	普通③	普通②
平 舘	⑥→②	普通⑤, 家政科学	普通②, 家政科学	普通①, 家政科学
雫 石	⑥→①	普通⑤, 国際教養	普通③	普通①
紫波総合	⑦→④	普通⑤, 農業, 情報デザイン	総合⑥ (総合学科高校に再編)	総合④

専門的な学びの多様性を維持するためには、これ以上の学級減は困難

## エ 学校規模別の状況 ①

### (1) 学校規模と教員数の状況

[県立普通科高校の例]

規 模	1学級校	2学級校	3学級校	4学級校	5学級校	6学級校	7学級校	8学級校
教員数	11	18	22	29	33	42	51	55

※ 実際に配置された教諭、養護教諭等の合計

## エ 学校規模別の状況 ②

### (2) 学校規模と科目の開設状況

[県立普通科高校の例]

学校規模	学校名	理 科			地歴公民		
		教員数	教員の専門科目	専門の教員が配置されない科目	教員数	教員の専門科目	専門の教員が配置されない科目
3学級	A高校	3	物、生、化	地学	3	日、地、公	世界史
4学級	B高校	4	物、生2、化	地学	4	日、世、地、公	
	C高校	4	物、生、化2	地学	5	日、世2、地、公	
5学級	D高校	5	物、生2、化2	地学(非常勤講師で対応)	5	日、世、地、公2	
6学級	E高校	7	物2、生2、化3	地学	5	日2、世、地、公	
	F高校	7	物3、生2、化2	地学	6	日、世2、地、公2	
7学級	G高校	9	物3、生3、地、化2		9	日2、世3、地2、公2	

## エ 学校規模別の状況 ③

### (3) 学校規模と設置部活動数の状況

[県立高校の平均]

種別	1学級校	2学級校	3学級校	4学級校	5学級校	6学級校	7学級校
運動部	8.0	12.6	16.7	20.2	22.7	26.6	29.0
文化部	3.6	4.6	6.5	8.3	11.8	10.4	14.8

※ 部活動には同好会も含む

※ 運動部は男子、女子の合計

# 才 他県都市部の大規模校統合の状況 ①

## (1) 青森県

① 青森東高校・青森戸山高校 → 青森東高校(7学級) 青森市の人口:(R2)約27万9千人

学校名	設置年度	学科編制	スケジュール
青森東	S38	7学級(280人) 普通7	H23 青森戸山高校を募集停止、 H25 統合
青森戸山	S57	6学級(240人) 普通5、美術1	

② 八戸北高校・八戸南高校 → 八戸北高校(6学級) 八戸市の人口:(R2)約22万人6千人

学校名	設置年度	学科編制	スケジュール
八戸北	S38	6学級(240人) 普通6	H23 八戸南高校を募集停止、 H25 統合
八戸南	S58	5学級(200人) 普通5	

## 才 他県都市部の大規模校統合の状況 ②

### (2) 高知県

高知西高校・高知南高校 → 高知国際高校

高知市の人口:(R2)約 32万5千人

学校名	設置年度	学科編制	スケジュール
高知西	S32	7学級(280人) 普通6、外国語1	R3 両校とも募集停止、R5 閉校
高知南	S62	6学級(240人) 普通5、国際1	
高知国際	R3	7学級(280人) 普通5、グローバル2	R3 開校

## 才 他県都市部の大規模校統合の状況 ③

### (3) 奈良県

西の京高校・平城高校・登美ヶ丘高校 → 国際高校・奈良県立大学付属高校

奈良市の人口：(R2)約35万5千人

学校名	設置年度	学科編制	スケジュール
西の京	S53	8学級(320人) 普通8	R4 募集停止、R6 閉校
平城	S54	9学級(360人) 普通9	R2 両校とも募集停止 R4 閉校
登美ヶ丘	S60	6学級(240人) 普通6	
国際	R2	5学級(190人) 国際5	R2 開校
奈良県立大付属	R4	5学級(200人) 探究5	R4 開校

## カ 盛岡ブロックにおける高校再編について ①

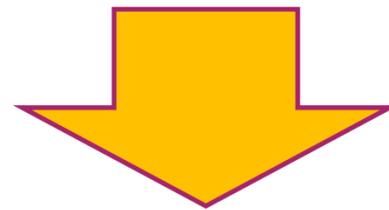
### (1) 後期計画の検討に当たり本県の高校の在り方において目指した姿

- 県内において、どの地域に居住しても高校教育を受けられる機会の保障
- 5年後以降の高校生（現在の小学校5年生以下の子どもたち）も充実した高校生活を送ることができる環境の整備

## カ 盛岡ブロックにおける高校再編について ②

### (2) 盛岡ブロックにおける高校再編の方針

- 生徒の教育環境の確保のため、**学級減によらない再編を行う**
- 盛岡への一極集中に対応するため、**盛岡中心校の統合を行う**
- **発展的な統合を行い、特色ある教育を先導的に実践する大規模校を設置する**
- 普通科系高校の**配置バランスを確保する**（現行：北部2校、中央部2校、南部3校）

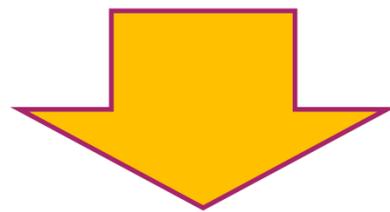


体育の学びに特色のある**盛岡南高校**と、芸術・体育等の学びに特色のある**不来方高校**を**発展的に統合し**、さらなる高みを目指した教育を実践する**大規模校を設置する**。

## カ 盛岡ブロックにおける高校再編について ③

### (3) 統合の形態や統合新設校の校舎等における方針

- 交通の利便性等の状況に鑑み、**校舎制によらない統合形態**とする
- **既存の校舎や施設・設備を活用**し、統合準備に要する期間の短縮等を図る
- 統合新設校の詳細については、両校関係者で構成する「**統合検討委員会**」で検討



**校舎の收容可能学級数の状況**(盛岡南高校:最大24学級、不来方高校:最大30学級)や、**多様な教科・科目の開設に対応できる施設設備の状況に鑑み**、**統合新設校は、現・不来方高校の校舎を活用する。**

### 3 盛岡南・不来方統合新設校の姿について

---

## ア 高校教育を取り巻く状況

### (1) 探究的な学びの推進（学習指導要領の改訂）

- 教科横断的な学習の充実により、現代的な諸課題に対応できる資質・能力を育成
- 「総合的な探究の時間」等を活用し、より良く課題を発見、解決する資質・能力を育成

### (2) 大学入試改革（大学入学共通テストの実施 他）

- 高大接続改革の一環として、学習指導要領の改訂等とともに実施
- 各教科・科目の特質に応じ、知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力等も重視

### (3) 普通科改革（※中央教育審議会で検討中）

- 高校生の約7割が在籍する普通科において、生徒の能力や興味関心等に応じた学びを提供
- 「学際科学的な学び」や「地域社会が抱える課題の解決に向けた学び」等に取り組む学科

# 学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む  
**「社会に開かれた教育課程」**の実現  
各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

**新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し**

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など  
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す  
**学習内容の削減は行わない\***

**主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善**

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成  
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

\*高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

# イ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要 ①

## 統合新設校

本県の様々な分野の振興に資する人材の育成を果たす学校へ

### 学校統合の内容

#### 盛岡南高校

定員240名（6学級）  
普通科5学級（含 体育コース1）  
体育科1学級

#### 体育、芸術等の特色ある教育 を实践する2校の発展的統合

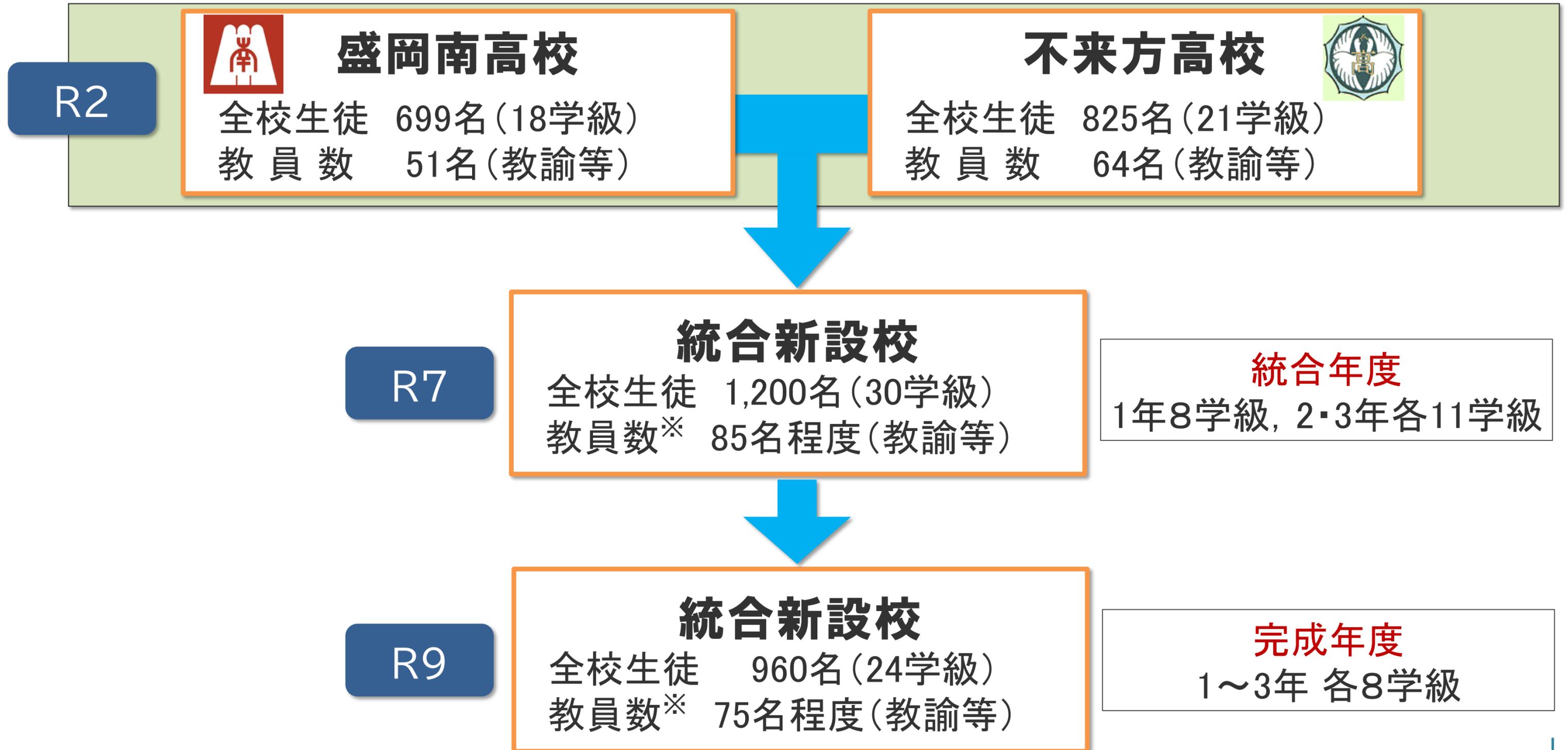
- 多様な価値観に触れながら切磋琢磨
- スケールメリットを生かした、より一層の活性化

#### 不来方高校

定員280名（7学級）  
普通科（総合選択制）7学級  
5学系（人、理、芸、外、体）

**盛岡ブロックにおける特色ある学習活動等に取り組む大規模校の設置（令和7年度）**  
**定員320人（8学級）県内最大規模**

# イ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要〔統合後のイメージ〕



※ 単位制を導入した場合の見込み

## イ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要 ②

### 統合新設校についての構想

- ① 盛岡南高校と不来方高校の統合により、**新たな高校をR7に設置**する。(統合に伴い**両校を閉校し、統合新設校が開校**する。)
- ② **盛岡南高校と不来方高校の特色ある教育活動を継承**したうえで、**1学年8学級のスケールメリットを生かし、さらに発展させる教育活動を実践**する。
- ③ 設置する学科は「**普通科**」または「**普通科と体育科**」とし、学びの分野(「**学系**」と呼ぶ。)の枠をこえた**多様な科目選択に対応できる「総合選択制」を導入**する。
- ④ 学系は、「**人文**」、「**理数**」、「**芸術**」、「**外国語**」、「**体育**」の各分野とする。  
(「**体育**」は、「**学科**」もあり得る。)
- ⑤ 校舎等は、**現在の不来方高校の校舎等を使用**する。

## イ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要 ③

### 統合新設校についての今後の検討事項

- ① 校名、校歌、校訓、制服、校章
- ② 体育の学びに関する構成(学系のみor学科と学系)
- ③ 教育課程、単位制の導入等に関すること
- ④ 部活動に関すること
- ⑤ 教育活動の詳細に関すること(学校行事、生徒会 等)
- ⑥ PTAや同窓会等の組織に関すること 等

盛岡南高校と不来方高校の関係者(校長等、PTAや同窓会の代表者)、盛岡市や矢巾町の教育委員会の代表者、地域の中学校の代表者等で構成される**統合検討委員会**を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討

# ウ 統合新設校における特色ある教育を先導的に実践する学びの姿①

## ☆ 普通科〔**体育学系**〕・(体育科) 2学級

学習内容 の特色	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 課題研究や演習、検定取得等を中心とした<b>スポーツ総合演習(盛南スポーツ学)の継承・発展</b></li><li>・ スポーツに関する<b>理論や技術の習得</b>、更なる<b>競技力の伸長</b></li><li>・ 身体や精神への影響、健康づくりなどの視点を取り入れた、<b>スポーツの科学的な考察</b></li><li>・ 地域社会、産業などとの結びつきによる<b>スポーツの文化的、社会的意義に関する考察</b></li></ul>
育成する 人材像	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国内外で活躍する<b>アスリートや競技力向上を支える人材</b>の育成</li><li>・ 生涯スポーツ、共生社会型スポーツの推進など、<b>人々の生きがいや健康づくりに資する人材</b>の育成</li><li>・ 各種スポーツイベントの開催など、<b>スポーツを通じた地域づくりを図る人材</b>の育成</li></ul>

※体育学系と体育学科の学級数等の構成は、今後、統合検討委員会で検討します。



# 【参考】盛岡南高校におけるスポーツ総合演習（盛南スポーツ学）①

- 盛岡南高校体育科・体育コースは、**競技力向上の視点だけでなく、スポーツの知識・技能を生かして社会に貢献する人材の育成に向け、課題解決型の学び**に取り組んでいる。
- 科目「**スポーツ総合演習**」（盛南スポーツ学）を設定し、授業をとおして「**スポーツ医・科学**」の基礎知識や実践力を身に付けさせ、生徒の資質向上に努めることにより、これまで学校として傾倒してきた「**するスポーツ**」から、**スポーツをとおして地域や岩手に貢献する人材を育成する「支えるスポーツ」**へと遷移している。

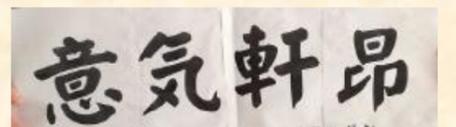


# 【参考】盛岡南高校におけるスポーツ総合演習（盛南スポーツ学）②



## 盛岡南高校 体育科・体育コースの**人材育成の目指す姿**

- ① 将来、岩手県の体育・スポーツの指導者を育成すること
- ② 将来、岩手県内の地域スポーツを支える人材を育成すること
- ③ 将来、日本や世界のスポーツの様々な場面において有益な人材を育成すること



## ウ 統合新設校における特色ある教育を先導的に実践する学びの姿②

### ☆ 普通科〔人文・理数学系〕 4学級（「探究学系」等の名称も検討）

学習内容 の特色	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現代社会が直面する課題や地域の抱える課題等を取り上げ、多角的な視点から解決策を図る学習を取り入れた、<b>探究的な学びへの取組</b></li><li>・ 思考力・判断力・表現力を重視する、<b>新たな大学入試制度への対応と、これからの時代に求められる資質・能力の養成</b></li><li>・ 生徒が自らの将来の希望に応じて授業を選択する「<b>単位制</b>」の導入を検討</li></ul>
育成する 人材像	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 様々な課題に主体的に取り組むとともに、他者と協働して解決する力を身に付け、<b>岩手で、世界で活躍する人材</b>の育成</li><li>・ 医療や介護・福祉、教育、産業振興など、<b>地域が抱える様々な課題において、最適解を求め、課題解決に資する人材</b>の育成</li></ul>

# 【参考】探究的な学びの実践例 ①

## (1) 岩手県立大槌高等学校

- ・ 文科省「**地域との協働による高等学校教育改革推進事業 地域魅力化型**」指定校
- ・ 『大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト(大槌高校魅力化構想)』
- ・ 学校設定科目「三陸みらい探究」で活動

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト（大槌高校魅力化構想）			
事業背景	①高校が存置する大槌町は、東日本大震災津波によって壊滅的な被害を受け、 <b>復興を担うリーダーの育成が急務(震災復興)</b>	②県内最大の人口減少率であり、地域貢献意欲が高い、 <b>地域を支える人材の育成が急務である(地域を支えるリーダーの育成)</b>	
魅力化コンセプト	大海を航る、大槌(ハンマー)を持つとう		
目指す人物像	<b>自立</b> 意志がある課題をジブンゴトにし、主体的に探究・行動が出来る人	<b>協働</b> 仲間とともにある他の価値観や文化等の多様性を受容し違いを越えて共創できる人	<b>創造</b> 逆境から創り出す予測できない未来や想定外など逆境においても新しい価値を創り出す人



## 【参考】探究的な学びの実践例 ②

### (2) 山形県立山形東高等学校

- ・ H30に「探究科(理数探究科、国際探究科)」を設置。今年度末に探究科1期生が卒業
- ・ 文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 グローカル型」指定校
- ・ 総合的な探究の時間を活用した「山東探究塾」で活動

#### ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローバルリーダーの育成

将来、地域の課題に立ち向かうグローバルリーダーとして国内外で活躍する人材を育成するために、地域の行政機関や専門組織、大学等研究機関、企業等と協働して教育プログラムを開発する。具体的には地域とのコンソーシアムを構築しながら「山東探究塾」(総合的な探究の時間)等の取組及び授業改善を行う。

管理機関である山形県教育委員会の下、山形県立山形東高等学校が、山形市、公益社団法人山形県観光物産協会、東北芸術工科大学、独立行政法人国際協力機構(JICA)東北、山形経済同友会とのコンソーシアムを構築し、連携機関として山形大学と東北大学の協力を得ながら、地域と協働して、目指す人材育成のための教育プログラムを実践している。また、運営に当たっては、上智大学教授 奈須正裕氏、山形大学准教授 森田智幸氏、一般社団法人i.club代表理事 小川悠氏その他、地域・保護者代表として鈴木浩一氏・米本泰氏の指導・助言を受けながら研究開発に取り組んでいる。



# ウ 統合新設校における特色ある教育を先導的に実践する学びの姿③

## ☆ 普通科〔芸術学系〕 1学級

学習内容 の特色	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 音楽、美術・工芸に関する歴史的、文化的背景等の教養とともに、これらの<b>専門的な理論や技能の習得</b></li><li>・ 生徒の個性を尊重しながら豊かな感性を養うことによる<b>創造力の伸長</b>や様々な発表の場を通じた<b>表現力の伸長</b></li><li>・ 芸術文化の<b>社会的意義等に関する考察</b></li></ul>
育成する 人材像	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 音楽、美術・工芸活動において国内外で活躍する表現者や指導者の育成</li><li>・ <b>次世代の文化芸術を創造する人材</b>の育成</li><li>・ 文化芸術活動のプロデュースや交流、情報発信等を通じて<b>人々の生活を充実させ、魅力ある社会を創造する人材</b>の育成</li></ul>

# ウ 統合新設校における特色ある教育を先導的に実践する学びの姿④

## ☆ 普通科〔外国語学系〕 1学級

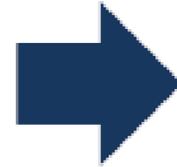
学習内容 の特色	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外国人教師（ネイティブ・スピーカー）による指導や国際交流活動の実施</li><li>・ 外国語による少人数ディスカッションやスピーチ、プレゼンテーションなど、<b>多様で豊富な学習機会</b>の設定</li><li>・ <b>海外の高校や高等研究機関</b>との交流</li><li>・ 海外における日常生活、文化、風習などの理解促進や日本文化との比較</li></ul>
育成する 人材像	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高度な国際的感覚と外国語運用能力を備え、<b>グローバル化の進展に対応できる人材</b>の育成</li><li>・ 文化や経済面等の様々な<b>国際交流活動を発展させる人材</b>の育成</li><li>・ <b>外国籍の人々が地域に溶け込み、協働して発展に取り組む社会を構築する人材</b>の育成</li></ul>

## エ 特色ある学びの連携・深化による総合力の育成

**新たな発想とネットワークで社会課題を探究  
(各学系(学科)の連携によって創造的に課題解決につなげる人材育成)**

各学系(学科)が連携した学びの深化・総合力の育成 ※ 総合的な探究の時間の活用、単位制の導入等

人文・理数 × 芸術  
× 外国語 × 体育  
の学び



### 探究テーマ(例)

あらゆる世代が生き生きと暮らせる社会の実現  
(生涯スポーツや文化芸術活動、医療福祉の充実等)

障がい者や外国籍の人々の社会参加  
(共生社会型文化・スポーツ活動の推進等)

文化・スポーツ等の振興による地域活性化  
(世界に羽ばたく人材育成や国際イベントの誘致等)

## オ 地域との協働による学習活動の展開

**新たな発想とネットワークで社会課題を探究  
(各学系(学科)の連携によって創造的に課題解決につなげる人材育成)**

### 地域との協働による学習活動

#### ○ 地域探究とキャリアプランの醸成

地域の探究活動等を通じて地域を知り、考える力とともに社会性や公共性を養い、探究活動を通して生徒自らの将来のキャリアプランの構築につなげていく。

#### ○ 地域資源の活用

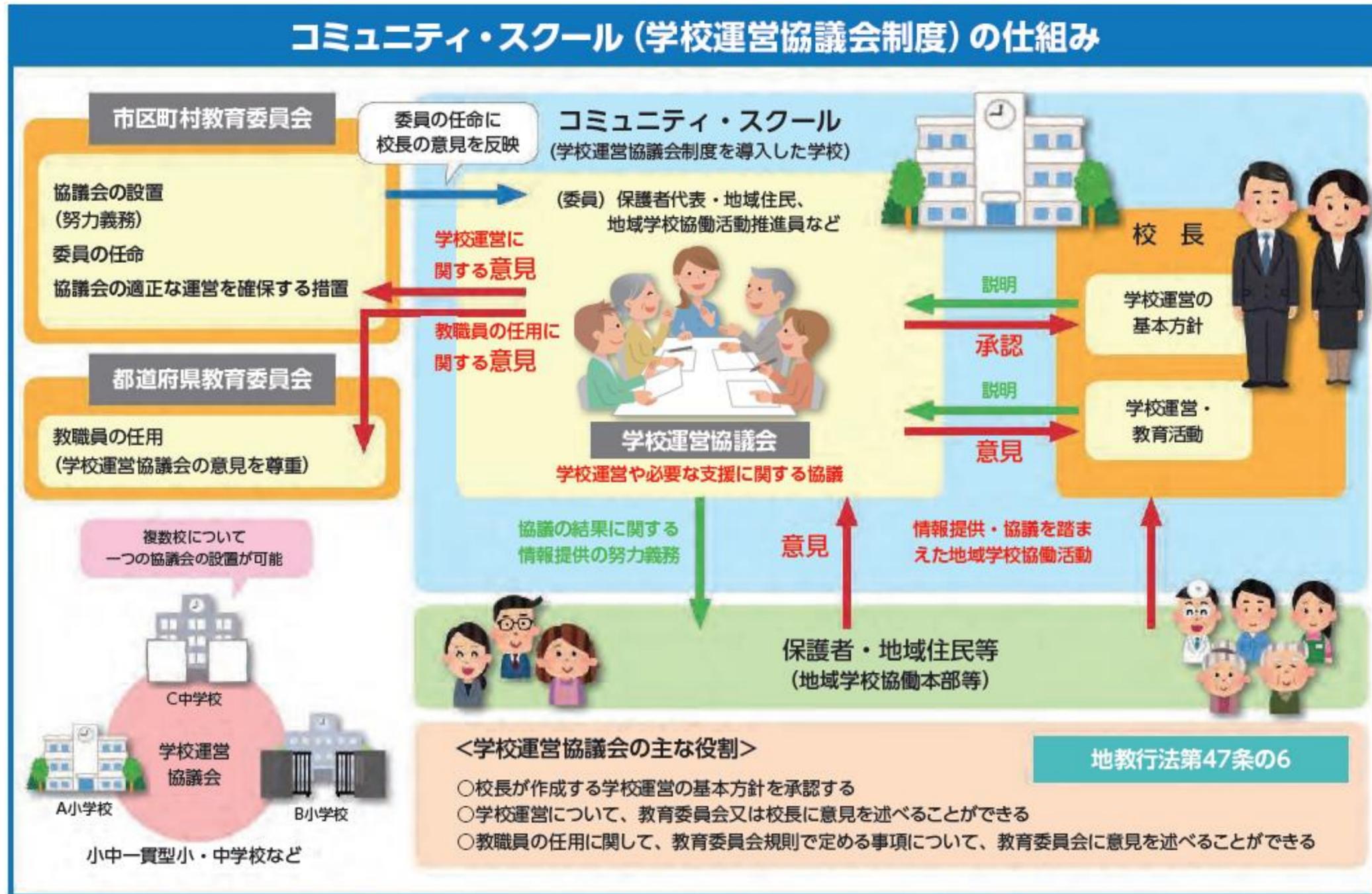
近隣地域における医療機関集積等の条件を活かし、地域人材や資源の活用等、地域との協働による教育活動を行うとともに、文化やスポーツ、国際交流に関する情報発信を行う。

#### ○ 地域への学校開放や交流

全ての世代が健康で活力に満ちる社会の構築を目指して、学校を地域社会に開放し、生徒との交流とともに健康づくり、文化活動等への寄与を図る。

# カ 地域との協働・連携に向けたしくみづくり

地域との協働・連携に向け、統合新設校に「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会制度)を導入



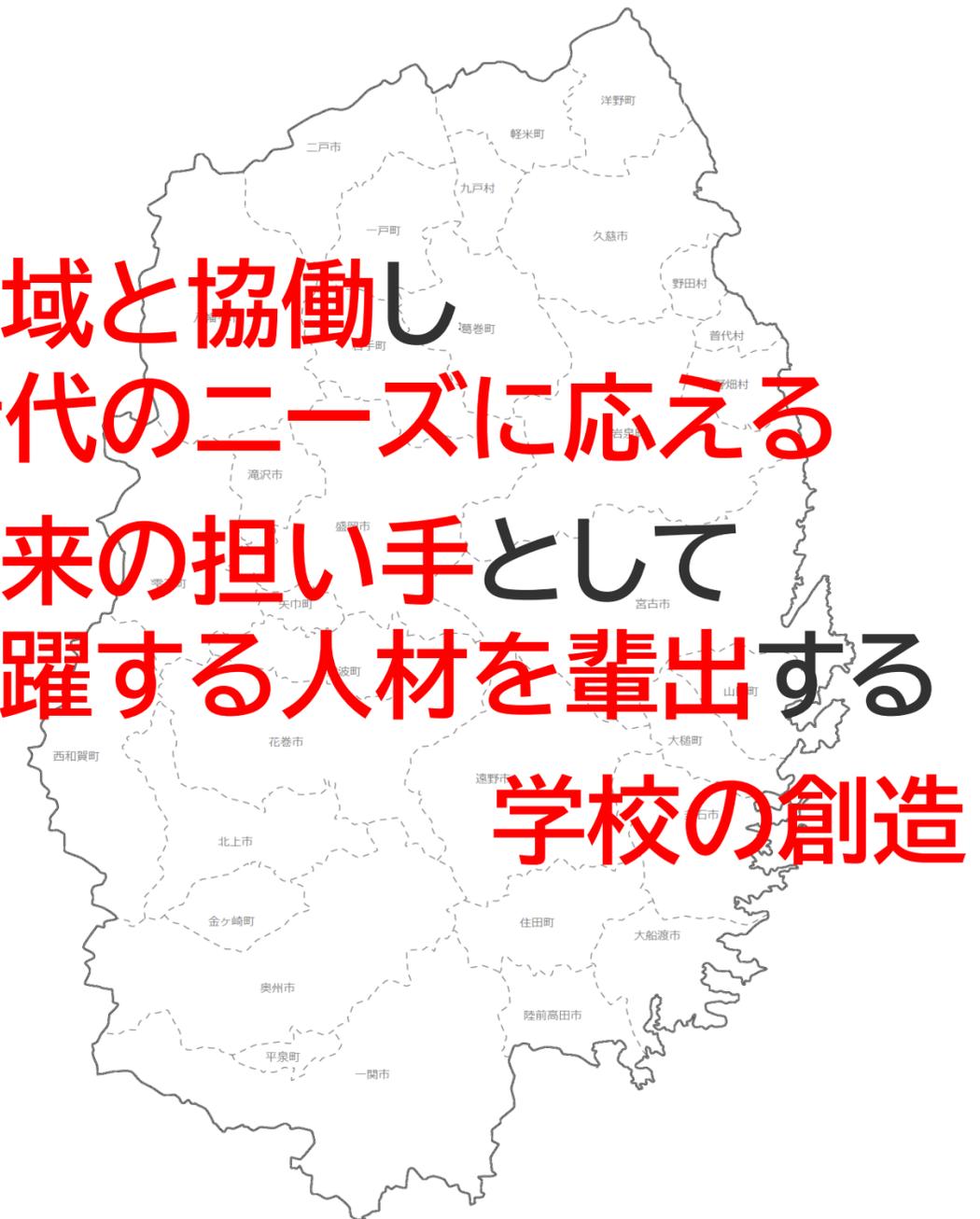
# キ 「共創力」を生かした新たな学校の創造

## 学びの横断による新たな価値の創造



## 地域との協働による学習活動

- 地域と協働し時代のニーズに応える
  - 未来の担い手として活躍する人材を輩出する
- 学校の創造



## ク 新たな学校で期待できる取組 ①



それぞれの学びに留まらず、特色ある学びを横断して探究活動を展開することによって学びが深化し、地域課題の解決に向けた実践を通じて学ぶ意義を実感できる。

# ク 新たな学校で期待できる取組 ②

イメージ

地域課題の解決

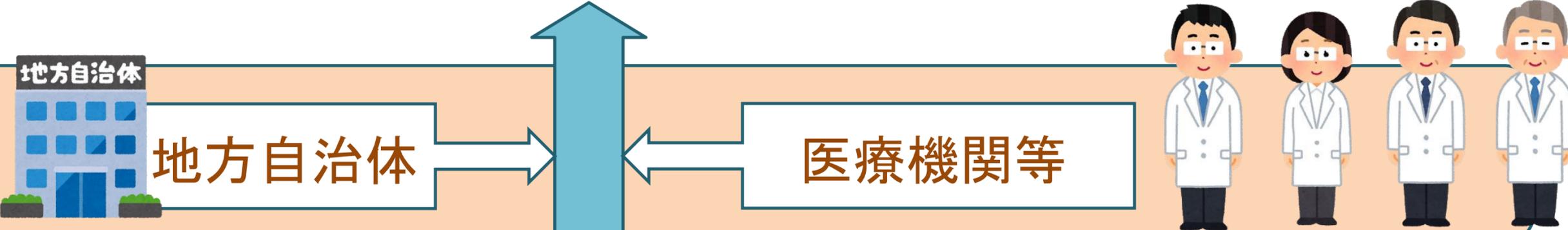
高齢者の健康づくり



地域との協働

地方自治体

医療機関等



体育

スポーツを通じた多様な社会  
参画に関する課題研究  
(例) 高齢者の身体機能の維持や健康  
づくりに役立つ「健康体操」の開発

<共創力>

芸術



芸術文化の社会的  
意義に関する課題研究  
(例) 歌をとおして高齢者のこころと  
からだの健康を支える研究

# ク 新たな学校で期待できる取組 ③

- 県内最大の学校規模を確保することによる**学校活動や部活動の活性化**  
→ **両校が蓄積してきたこれまでの実績や伝統の継承と発展**



## 4 盛岡工業高校の移転・整備について

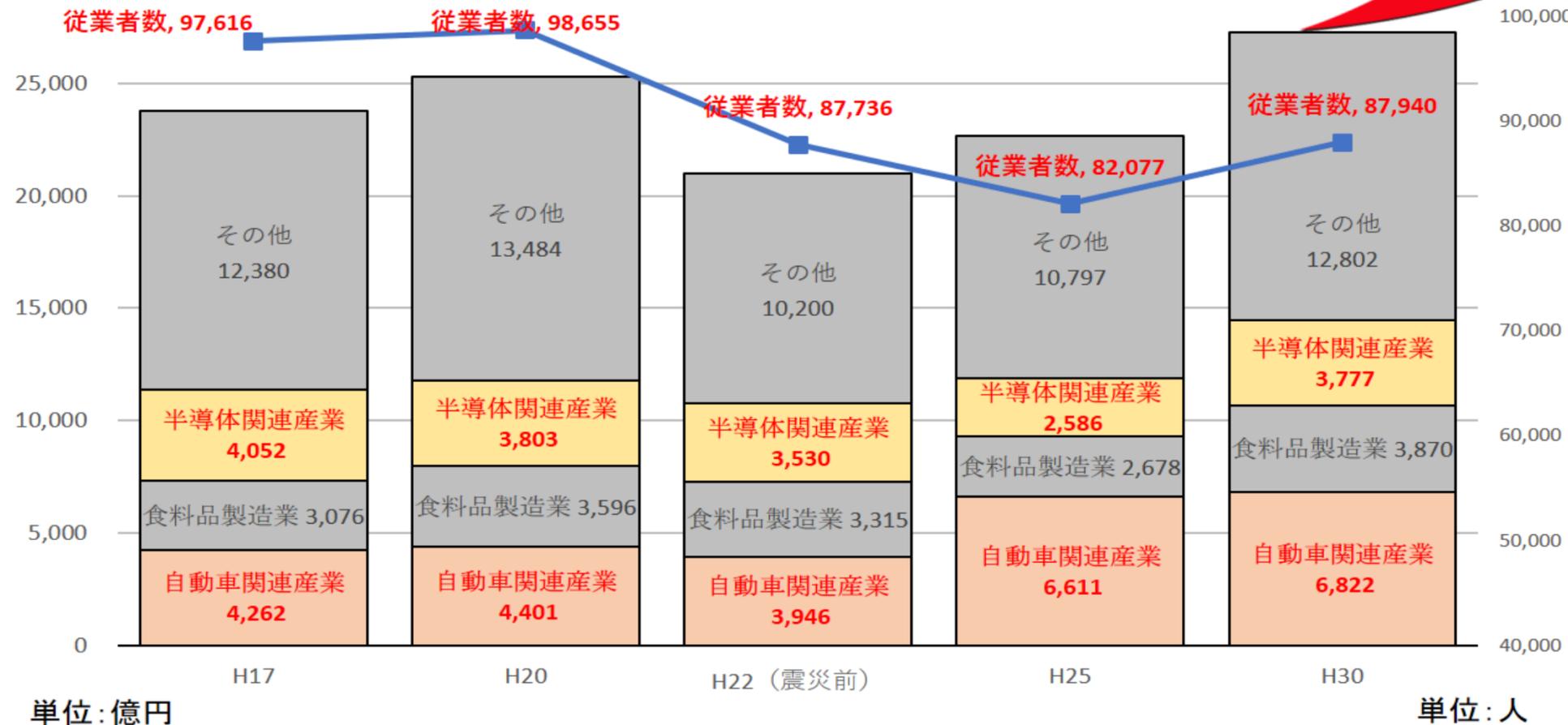
---

# ア 県内ものづくり産業振興の状況 ①

## (1) 岩手県におけるものづくり産業の現状と展望

- ◇ 自動車・半導体関連の製造品出荷額が増加
- ◇ 医療機器等関連産業も成長
- ◇ 今後、集積がさらに加速し、雇用が拡大

■ 岩手県の製造品出荷額・従業者数の推移



※ 商工労働観光部提供資料より

# ア 県内ものづくり産業振興の状況 ②

## (2) 工業人材育成の目指す姿と取組方針

**目指す姿** 「世界最先端のものづくり」を創造し、支える人材をオール岩手で育成・確保・定着

**目指す姿を実現するための取組**（期間：令和元年度～令和4年度）

取組方針	関係機関の連携強化により、地域の産業特性を生かしつつ全県を挙げた人材育成を推進
全県を挙げた人材育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場見学、必要人材等を取り入れた出前授業、インターンシップの継続実施</li> <li>・基礎的スキル、高度なスキル習得の促進、企業に対する理解増進のための取組を推進</li> <li>・企業人等、優れたスキル者・技術者による技術講習会等の取組の推進</li> </ul>
高度技術者・スキル者の育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等教育機関等と高校の連携強化による一体的なプログラムによる人材育成取組を推進</li> <li>・ソフトウェアとの融合技術等、産業の基盤となる人材育成の取組に加え、IoT、AI等活用など、高度技術人材等の育成取組を推進</li> <li>・企業の高度化や課題解決に資する高度技術者・スキル者の育成等を促進</li> </ul>
県内定着及びU・Iターンの促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場見学会、若手人材の紹介、企業ガイダンス、インターンシップ、出前授業等の実施による企業を知る機会の創出</li> <li>・高卒者の県内企業への就職を支援する取組の推進</li> <li>・保護者及び教員に対するものづくり企業を知る機会の創出</li> </ul>

※商工労働観光部提供及び公表資料より

# ア 県内ものづくり産業振興の状況 ③

## (3) 企業・関係機関との連携による人材育成の取組例

### ■平泉の文化遺産ガイダンス施設(仮称)新築工事現場見学

【盛岡工業高校 建築・デザイン科2年生(37人)】



# イ 盛岡工業高校の現状 ①

## (1) 沿革

明治31年 岩手実業学校設立認可

昭和28年 岩手県立盛岡工業高等学校と改称

昭和45年 現在地へ移転

## (2) 生徒数及び施設の状況等(R2年度)

① 778人(全日制:752人、定時制:26人)

② 設置学科等

【全日制】(7学科7学級)280人	【定時制】(1学科1学級)40人
機械科、電子機械科、電気科、電子情報科、土木科、工業化学科、建築・デザイン科	工業科

③ 建築年数(主な施設)

	管理棟	普通・特別教室棟	機械実習棟	電気実習棟	土木・建築実習棟
建築年度	昭和45年度	昭和45年度	平成3年度	昭和45年度	昭和45年度
建築年数	50年	50年	29年	50年	50年

# イ 盛岡工業高校の現状 ②

## (3) 課題

### ① 校舎等の老朽化

- ・ 建築後50年を経過している施設が多数
- ・ 建て替えまたは大規模修繕が必要

#### 【老朽化の一例】

雨漏り、コンクリートの剥離(外壁等)、油送配管等の劣化(暖房等に影響)等

### ② 生徒の負担が大きい通学環境

- ・ 最寄り駅、市内中心部から遠距離にあるため、通学の負担が大きい。
- ・ 冬期間の道路状況の悪化等により、通学に不便を感じている生徒、保護者が多い。

岩手飯岡駅から盛岡工業高校 4.4km(自転車20分、徒歩55分、バス20分)

岩手飯岡駅から盛岡南高校 1.8km(自転車8分、徒歩20分)

## ウ 盛岡南高校校舎等の活用によって期待できる効果 ①

### (1) 通学に係る生徒負担の軽減（通学環境の改善）

→ 工業学科を志す生徒の増加に期待

### (2) 最新設備・機器を使用した工業実習

→ 時代に対応した工業教育の実践が可能

### (3) 時代に対応した学び（工業教育の充実）

→ ITやIoT、AI等、これからの技術革新に対応した学びも検討

# 最新設備・機器を使用した工業実習や時代に対応した学び

イメージ

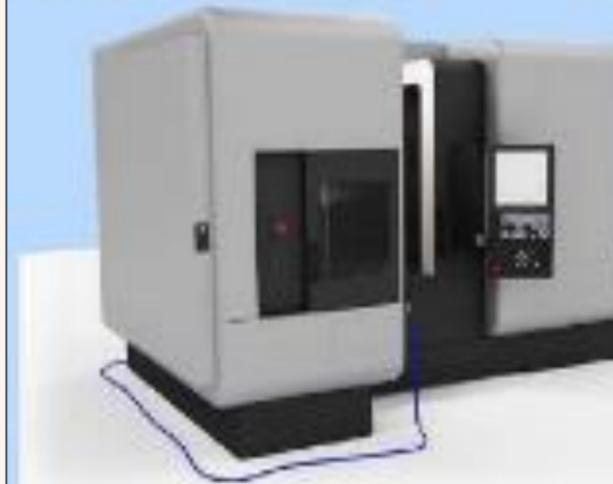
最新設備・機器を使用した実習

- 高性能PC端末を配備した実習室の整備
- ・装置の制御、画像の分析等多様な用途に活用



## ■マシニングセンタ

- ・自動工具交換機能を有した多種類の加工を連続で行えるNC(数値制御)工作装置



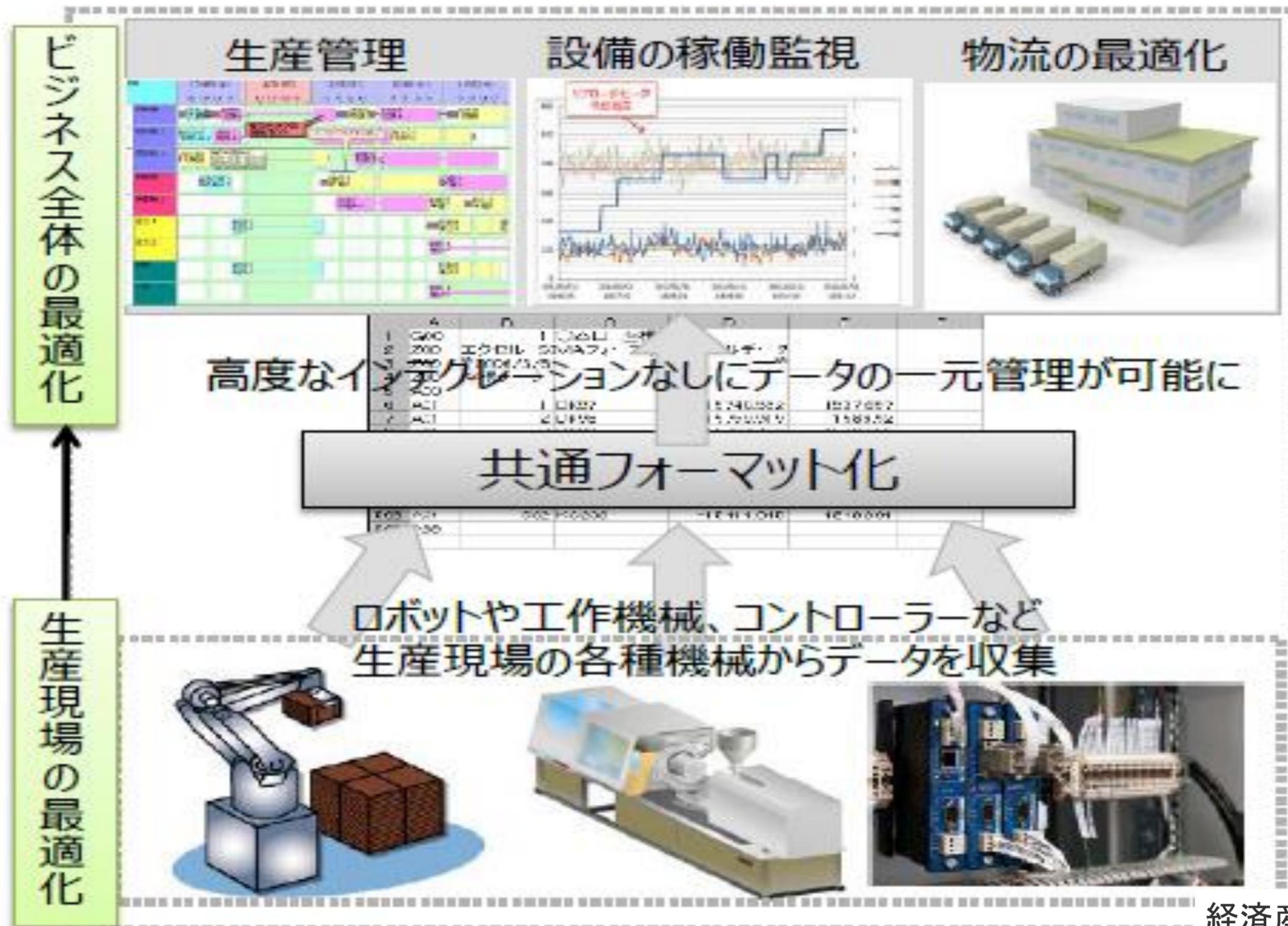
## ■金属造形3Dプリンタ

- ・コンピュータで入力された数値をもとに、金属等の加工品を作成する産業用装置



# 最新設備・機器を使用した工業実習や時代に対応した学び

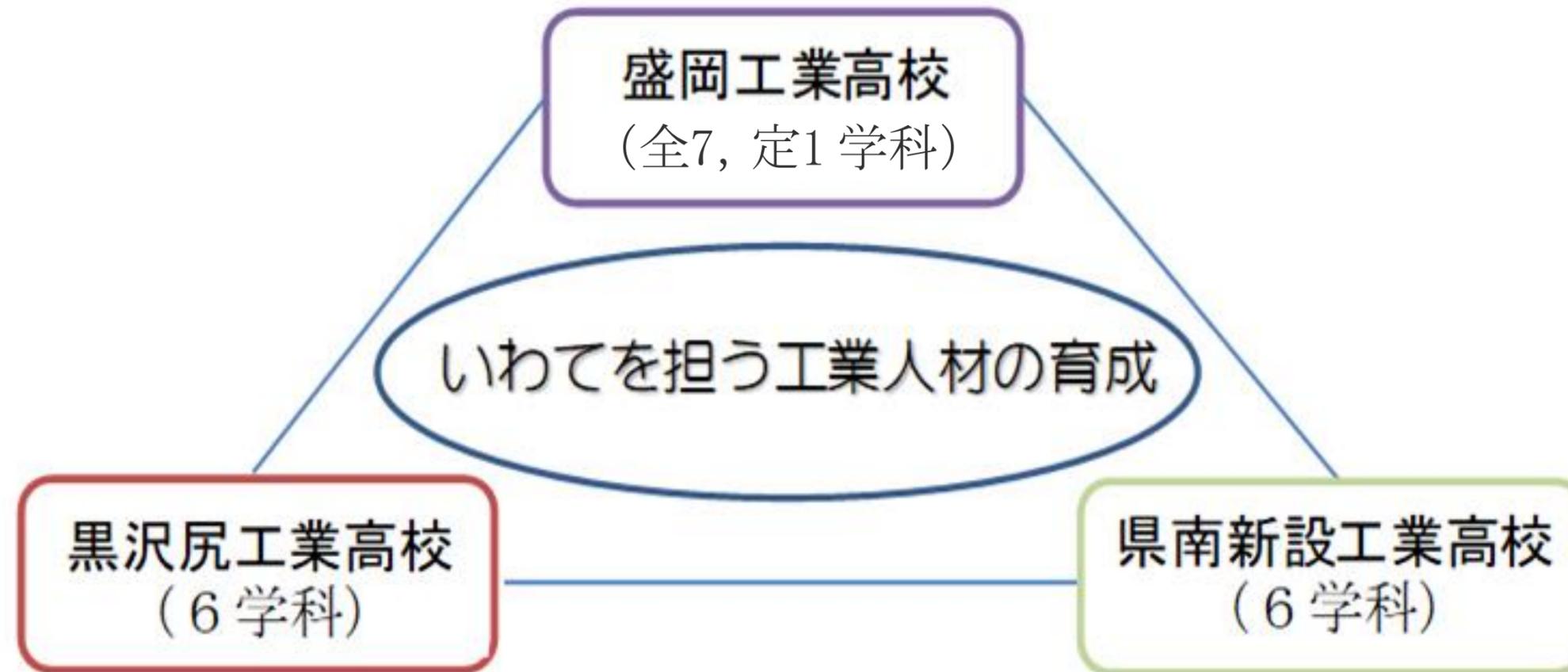
イメージ



ITやIoT、AI等、  
これからの技術革新に  
対応した学びの検討

## ウ 盛岡南高校校舎等の活用によって期待できる効果 ②

### (4) いわてを担う工業人材の育成に向けた基幹となる工業高校3校体制



### (5) 県有施設の有効利用

→ 全施設の新築に比べ、早期の整備が可能

## ウ 盛岡南高校校舎等の活用によって期待できる効果 ③

### (6) 学校と地域や地域産業との連携の強化

→ 新設する実習棟など、施設の積極的な地域開放を検討

### (7) 隣接する両校（統合新設校と移転後の盛岡工業高校）が切磋琢磨できる環境

→ スポーツ強豪校としての両校の活躍に期待

# 学校と地域・地域産業との連携強化，施設の積極的な地域開放

Fab terrace iwate

イメージ

## 場づくり ～ファブテラスいわて～

- 2018年(H30)3月に「ファブテラスいわて」を設置
- 県内メーカーが集い、創作を楽しむ場を提供



【『ファブテラスいわて』の名称について】

「ファブスペース」「ファブラボ」として定着している“ファブ”に、設置場所のアイーナ3階ロビー展示スペースの“テラス”のような明るさが未来を照らすイメージを加えました。

学校開放のイメージ  
〔参考例〕

ファブテラスいわて  
(ミニラボ)

# 学校と地域・地域産業との連携強化，施設の積極的な地域開放

Fab terrace iwate

イメージ

## ファブテラスいわて

メイカームーブメントを推進する拠点である「ファブテラスいわて」を第4次産業革命のゲートウェイとして最大限活用し、岩手にいながら県民に最先端のものづくり体験を提供



### 多様なものづくり文化の醸成

社会生活を豊かにするとともに、本県ものづくり産業を支える人材を育成

学校開放のイメージ  
〔参考例〕

ファブテラスいわて  
(ミニラボ)

【主な設備】



3Dプリンター



レーザーカッター



デジタル刺繍マシン